

研究・調査報告書

| | | |
|---|-------------|---|
| 分類番号 | 報告書番号 | 担当 |
| C-179 | 24-407 | ふくしまクリニック 福嶋翔 独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター 松下幸生 |
| 題名 (原題/訳) | | |
| Neurobiological correlates of cue-reactivity in alcohol-use disorders: A voxel-wise meta-analysis of fMRI studies アルコール使用障害における手がかり反応性の神経生物学的相関： fMRI 研究のボクセル単位のメタアナリシス | | |
| 執筆者 | | |
| Jianguang Zeng, Shuxian Yu, Hengyi Cao, Yueyue Su, Zaiquan Dong, Xun Yang | | |
| 掲載誌 | | |
| Neurosci Biobehav Rev. 2021 Sep;128:294-310. doi:10.1016/j.neubiorev.2021.06.031 | | |
| キーワード | PMID | |
| アルコール使用障害、手がかり反応、中脳辺縁回路、fMRI | 34171325 | |
| 要旨 | | |
| 背景 アルコール関連刺激に対する脳反応の変化は、アルコール使用障害 (AUD) の神経的特徴であり、薬物療法の有望な標的である。しかし、手がかり反応に基づく機能的 MRI (fMRI) 研究では、結論は得られていない。 | | |
| 方法 AUD 患者における手がかり反応の神経基盤と治療成績、アルコールへの渴望、再発との関連性を検討するため、署名付きの異なるマッピングソフトを用いて5つのメタ解析を行った。 | | |
| 結果 その結果、AUD 患者では、アルコールの手がかりは、中脳皮質辺縁系回路において、中立的な手がかりよりも大きな手がかり反応を誘発し、頭頂および側頭領域では反応が低いことが明らかになった。対照群と比較して、AUD 患者は内側前頭前皮質と帯状皮質の前部/中部で過活動を示した。AUD 治療後、AUD 患者は前頭前野で高い活性を示したが、両側の尾状核、島皮質、右 DLPFC、左上前頭回では活性が低下した。アルコールへの渴望と再発については、手がかり反応の相関において、有意な結果は認められなかった。 | | |
| 結論 この結果は、皮質線条体-辺縁系回路における手がかりによる異常が AUD の病態生理に深く関与している可能性を示唆するものであり、治療法の開発につながるものである。 | | |